

平成29年9月7日開会

平成29年第3回東松島市議会定例会

# 議員一般質問通告書

東松島市議会

## 《 議員一般質問 目次 》

平成29年第3回定例会

順位	氏名	件名	頁
第1位	古川 泰広	1 鳴瀬未来中学校移転に伴う通学路の安全確保について	3
		2 松くい虫防除対策の強化について	4
第2位	五ノ井 惣一郎	1 北赤井地区の市道拡幅整備を図れ	5
第3位	石森 晃寿	1 応急仮設住宅等入居者の現状と再建について	6
		1 友好都市・友好姉妹都市の交流について	7
第4位	上田 勉	1 学力向上の具体策を問う	8
		2 基地対策関連事業の推進と予算確保について	9
		3 防災アプリの導入について	10
第5位	大橋 博之	1 奥松島公社の今後の経営戦略は	11
		2 総合型地域スポーツクラブの設立の現状	12
第6位	齋藤 徹	1 発達障害児童、生徒と保護者に対する市内教育現場の対応について	13
第7位	小野 恵章	1 前阿部市政の継承と渥美市政の施策について	14
第8位	櫻井 政文	1 プログラミング教育対応策について	15
		2 国語が好きになり、その力を伸ばす方策について	16
第9位	熱海 重徳	1 体育施設の整備・管理について	17

第10位	土井 光正	1	発達障害への理解を広げ、早期発見、療育につなげよ	18
		2	小学校の施設整備の完備により、安全安心の学習環境を整えよ	19
		3	道路冠水等の対策工事や異常降雨対策を急げ	20
第11位	阿部 としゑ	1	夏休み後の教育指導を問う	21
		2	今後の友好都市等交流事業を問う	22
第12位	熊谷 昌崇	1	消防団員の確保について	23
		2	被災建造物の撤去推進について	24
第13位	手代木 せつ子	1	廃棄物処理業務についてを問う	25
第14位	長谷川 博	1	がんばる農家(多様な担い手)支援事業の創設について	26
		2	学校給食の無償化について	27
第15位	小野 幸男	1	航空祭と基地との関わりについて	28
		2	復興事業の課題について	29
第16位	滝 健一	1	市営墓地の建設に着手を	30
		2	子供のいじめ問題と教育環境の整備策について	31
第17位	佐藤 富夫	1	本市の内部統制の在り方を問う	32
		2	保育施設の待機児童対策を問う	33

【質問者数17人・質問件数31件】

氏名	件名	要旨
<p>第1位</p> <p>古川 泰広</p>	<p>1. 鳴瀬未来中学校移転に伴う通学路の安全確保について</p>	<p>移転する鳴瀬未来中学校は、平成30年1月の3学期から新校舎での授業が開始されることから、通学は新しい慣れない通学ルートの上、冬季にかかることから父兄始め関係者から、通学時の安全確保について懸念の声が上がっている。</p> <p>子どもたちの安全な通学環境を確保することは、最優先課題の一つであり、通学路の安全確保について以下伺う。</p> <p>(1) 通学路の安全確保のための基本的な考えとその対策と体制について。</p> <p>(2) 通学路の指定に当たっては、現場踏査が実施されていると思料されるが以下について伺う。</p> <p>旧小野橋歩道橋は補修のため通行止めになっているが補修工事の促進を要望すべきと思料されるが対応の現状について。</p> <p>小野中央地内の国道45号への接続坂道の車止めを増設すべきと思料されるが、また当該個所の冬季対策について伺う。</p> <p>国道45号鳴瀬大橋交差点における滞留場の拡幅について。</p> <p>市道台前亀岡線浅井大手地内の山腹崩落危険個所の対策について。</p> <p>市道台前亀岡線と池塚・山岸線との交差点改良の計画について。</p> <p>市道上野蒜大塚線と浅井大塚線の交差点への信号機設置と横断歩道を整備すべき。</p> <p>(3) 鳴瀬未来中学校の移転に伴うスクールバスの運行計画は宮戸地区全体と西福田・上下堤方面6キロ以上の地区の計画と聞いているが、通学路の現状を踏まえ、鳴瀬未来中学校学区全域を運行区域にすべきと思料されるが伺う。</p> <p style="text-align: right;">【答弁を求める者 市長、教育長】</p>

氏 名	件 名	要 旨
古川 泰広	2．松くい虫防除対策の強化について	<p>日本三景松島の一角をなす宮戸島の松は宮戸島にとって生命である。その松が、松くい虫被害の拡大によって、非常に深刻な問題になっていると言われている。</p> <p>去る8月22日には宮城県東部地方振興事務所長に予算の拡大を要望したところだが、宮戸地区の方々からは、県管理区域より東松島市管理区域の被害が拡大しているという話があり現地精査の上、県と連携し効果的な防除対策を強化すべきと思料されるが伺う。</p> <p style="text-align: right;"><b>【答弁を求める者 市長】</b></p>

氏 名	件 名	要 旨
<p>第2位</p> <p>五ノ井惣一郎</p>	<p>1. 北赤井地区の市道拡幅整備を図れ</p>	<p>県道石巻鹿島台大衡線の北側に並行した、袋堀・下区線、相野佐野53号線は、河南中央公園北側の石巻市須江地区産業用地に続く道路である。現在、県道は震災後、車両の通行量が大幅に増え朝夕のラッシュ時には、歩道があるものの、赤井小に通学する子供たちにとっては、危険な通学路でもある。また県道の赤井北側の市道は狭隘<small>きょうあい</small>で農地への出入り口であり、大型農機の通行には、大変な危険をなしている。平成32年には赤井北地区の深谷地区は、ほ場整備の採択要望中と聞くし、拡幅整備となれば石巻産業用地への通勤道路となり、今後の北赤井地区の土地利用の新たな計画も考えられる。また、赤井堀に架かる高田橋の劣化も激しく危険である。この路線については、旧矢本町時代に計画されたが、不調になり計画中止となった。現在は赤井北地区民の強い要望と将来のまちづくりの地域活性・発展には欠かせないバイパス的な市道路線である。この市道の拡幅整備について考えを伺う。</p> <p style="text-align: right;">【答弁を求める者 市長】</p>

氏 名	件 名	要 旨
<p>第3位</p> <p>石 森 晃 寿</p>	<p>1. 応急仮設住宅等入居者の現状と再建について</p>	<p>東日本大震災により被災され、居住している住宅が全壊するなどして、居住する住宅がない世帯の方々へ、災害救助法に基づき、応急仮設住宅等を供与しているが、東日本大震災から6年6カ月が経過し、移転先団地の整備が進み、住宅再建、災害公営住宅の整備に伴う入居により応急仮設住宅等の入居率が10%を下回っていると思われるが、入居者の安全を確保するために、市としてどのように対応されるか、以下の点について伺う。</p> <p>(1) 現在、応急仮設住宅に入居している世帯、人数、入居率は、どうなっているのか。今後の再建先、支度金等は、検討しているのか。</p> <p>(2) 現在、民間賃貸借上げ住宅に入居している世帯、人数、入居率はどうなっているのか。今後の再建先、支度金等は、検討しているのか。</p> <p>(3) 現在、応急仮設住宅に入居している世帯および民間賃貸借上げ住宅に入居している世帯で、再建先が確定していない世帯は、あるのか。その場合、どのような対応を考えているのか。</p> <p>(4) 応急仮設住宅の解体時期は、確定しているのか。</p> <p style="text-align: right;">【答弁を求める者 市長】</p>

氏 名	件 名	要 旨
石 森  晃 寿	2 . 友好都市・友好姉妹都市の交流について	<p>東松島市では、4つの都市と友好都市・友好姉妹都市の締結を行って、産業・文化・観光・スポーツ等で交流を図ってはいますが、以下の点について伺う。</p> <p>(1) 特産品等の寄贈を受けているが、失礼の無いように当市の<sup>のり</sup>海苔や<sup>かき</sup>牡蠣の特産品等を返礼しているのか。</p> <p>(2) 今後、市職員の人事交流を含めた幅広い分野で交流を深める必要があると思うが、どのように考えているか。</p> <p style="text-align: right;">【答弁を求める者 市長】</p>



氏名	件名	要旨
<p>第4位</p> <p>上田 勉</p>	<p>1. 学力向上の具体策を問う</p>	<p>現在、民生教育常任委員会では、東松島市復興教育振興基本計画の現状および教育委員会が行う個別施策について、現状調査している。</p> <p>一応基本的な事項について知ることができた。</p> <p>震災後における取り組み、国際化の進展や高度情報化などによる時代の変化に基づく期待される教育環境については、わが市を取り巻く現状の中で個別施策の具現化は、計画的ではあるがその進捗はより加速すべきと考える。</p> <p>教育行政のすべてをこの時間で議論するのは総花的でかつ不明瞭になるため、今まで多くの同僚議員が質問し、主として教育長から答弁を頂いてきたがいまだに成果の進捗が遅れている「学力向上施策」について基本的事項について伺うことにした。</p> <p>委員会での調査では、学力向上対策として、体制の充実 学習意欲の喚起 授業方法の工夫 家庭学習の充実などを挙げている。</p> <p>志教育(心あったかイートころ運動)やコミュニティ・スクールの推進は十分理解できるが、教育の実践の立場から、ボトムアップか全体としてのレベルアップか、教育時間の増加などの対策が必要と考える。</p> <p>昨年、教育長の紹介で由利本荘市を会派で視察した。</p> <p>少なくとも視察した学校では、すべての教科で狙い・重視すべき事項・時限における到達目標などをきめ細かく定め、生徒に示していたし、すべての教師がその定められた項目によって教育を実践していた。これは、本市の教育委員会が課題として問題解決の中で重視している学習習慣の定着に向けての各種方策の具現策より以前の手法と考える。</p> <p>よく教育長は、各学校の特徴に合わせた学習内容でと答弁しているが、学力という面では、全国・県の行う学力・学習調査結果については、各学校の成績や特徴については公表をしていない。</p> <p>おおよその状況は理解できるが、ではこの学力向上施策について各学校は、成績を踏まえてどのような教育を行い学力向上を目指しているのか。</p> <p>学力向上施策に関し、教育行政の観点から以下の点について新市長そして教育長の考え方を伺う。</p> <p>(1) 学力向上のための具体策。</p> <p>(2) コミュニティ・スクールと学力向上。</p> <p>(3) 学力向上するために家庭学習に何を望むか。</p> <p style="text-align: right;">【答弁を求める者 市長、教育長】</p>

氏名	件名	要旨
上田 勉	2. 基地対策関連事業の推進と予算確保について	<p>関連するこの種の質問は、6月定例会において、代表質問で行ってはいるが、その後の状況について何うものである。</p> <p>新市長となり、震災復興関連事業の推進や福祉事業への予算確保は、県議時代とはまた違った意味での苦勞があると思うが、先立つものは財源である。この時期に大きく影響するものに合併特例債事業の予算および防衛補助としての8条・9条関連交付金の獲得が影響する。</p> <p>その利用は本市の福祉事業はもちろん、復旧・復興事業の加速に大きな影響を及ぼし、役立ってもいる。</p> <p>前市長は、政治姿勢として防衛省に対し協力・協調を貫き、特別の思いを持って基地対策を大きな政策課題として対峙<sup>たいじ</sup>してきた。</p> <p>しかし、渥美市長は、基地とは「共存共栄」を掲げ、その手始めとして、航空祭は共催の姿勢をとった。</p> <p>「日本一の航空祭を目指す」は、基地や隊員・防衛省にとって歓迎ムードとし、基地対策の方向性にも大きく影響を及ぼすものとする。合併前の矢本町は、航空祭の前日を前夜祭と銘打って町民一丸となって夏を楽しんだものである。</p> <p>基地は、国土防衛と国民の生命・財産を守る重要かつ防衛力発揮の重要な施設であるが、平時においては、周辺に住む市民の生命・財産を守る市長の立場からすると生活環境整備に欠かせない限られた予算ではあるが防衛省に協力いただく手法としての要望活動も大きな責任でもある。</p> <p>現時点での関連事業と予算確保の状況、今後の要望活動の方向性について何う。</p> <p style="text-align: right;">【答弁を求める者 市長】</p>

氏 名	件 名	要 旨
上 田 勉	3 . 防災アプリの導入について	<p>震災の復旧・復興が進む中、本市における防災体制はいくつかの課題がある。</p> <p>市長は、6月定例会において、いわゆる防災監の任用について約束したが、市民生活の中で必要とされる情報を機宜に応じ必要な情報を瞬時にして入手できるシステム導入に取り組む必要があり、提案する。</p> <p>「防災アプリ」と題したが、この種のアプリは、携帯電話・スマホ・タブレットと言われる情報端末での活用について提案するものである。</p> <p>浜松市、大阪市、静岡市、名古屋市、世田谷区、荒川区、葛飾区、新潟市などがすでに運用している。</p> <p>どのアプリがいいかは、検討すればいいのだが、震災で大きな被害を受けた自治体としては、この種の情報提供にはあまり積極的でない。</p> <p>予算の有無を考えると発想が遅滞する。世界中が今の情報端末の利便性や問題点を学びながら各種の開発行為を行っている。</p> <p>日本においてもすでに人口衛星を打ち上げ、その精度は世界一となると、是非関連アプリの導入について予算確保し検討すべきと考えるが、市長の考えを伺う。</p> <p style="text-align: right;">【答弁を求める者 市長】</p>

氏 名	件 名	要 旨
<p>第5位</p> <p>大橋博之</p>	<p>1. 奥松島公社の今後の経営戦略は</p>	<p>東松島市が誕生してから奥松島公社について、多くの議員が一般質問や予算・決算の審査の中で議論されてきた。しかしながら、いまだ多くの課題があり有効な改革が進んでいないと思われる。</p> <p>今後、渥美市長はこの奥松島公社の問題についてどのような方針をもって観光戦略の中で位置付けしていくか、以下の点について市長の所見を伺う。</p> <p>(1) 社長が副市長で良いのか。</p> <p>(2) 民間からの資本金について増額を検討してはどうか。</p> <p>(3) 観光物産協会との連携について。</p> <p style="text-align: right;">【答弁を求める者 市長】</p>

氏 名	件 名	要 旨
<p>第5位</p> <p>大橋博之</p>	<p>2. 総合型地域スポーツクラブの設立の現状</p>	<p>平成28年第4回定例会において、「総合型地域スポーツクラブの設立方法は」という件名で質問した。</p> <p>設立方法として、始めに地域スポーツ指導者やスポーツ関係者などによる準備委員会を平成28年度中に設立し、子供からシニア層をターゲットとした形でのクラブづくりを検討していくという答弁であった。</p> <p>現在の進捗状況を具体的に説明をお願いします。</p> <p>また、スポーツ関係に造詣が深い渥美市長のこの事業に対する所見を伺う。</p> <p style="text-align: right;"><b>【答弁を求める者 市長、教育長】</b></p>

氏名	件名	要旨
<p>第6位</p> <p>齋藤 徹</p>	<p>1. 発達障害児童、生徒と保護者に対する市内教育現場の対応について</p>	<p>昨今の発達障害者支援法やインターネット等における情報発信によって、発達障害に対する認知は、発達障害を持つ子供やその疑いのある子供の保護者には十分に浸透していると感じられる。</p> <p>しかし、発達障害を抱える児童、生徒の多くは、一般的な子供との外観的な差異はなく、“変わった子供”“危険な子供”といった印象を持たれ、集団から孤立しがちである。</p> <p>また、実際の教育現場（小学校、中学校）において教員のスタンスの違いからか、その対応に温度差が生じていることは事実である。</p> <p>このような状況下では、担当する教員の合う合わないが、一般的な児童、生徒に比べ学習面や精神面に多大に影響すると考えるのは否定できない。</p> <p>保護者においても、他の保護者からの誤解、対人関係の摩擦等により、精神的にも不安定な状態になる場合がある。</p> <p>保護者を対象にしたカウンセリング等も実施してはいるが、その実態は単なるお悩み相談の域を出ないもので、解決策を保護者自身が調査していかなければならない問題がある。</p> <p>発達障害児への教育は、当事者家族以外への情報の周知と理解、協力が必要不可欠である点を踏まえて以下の点を問う。</p> <p>(1) 発達障害児童、生徒に対する教員対応の方向性の統一について。</p> <p>(2) 該当する児童、生徒への支援、協力周知方法について。</p> <p>(3) 発達障害児の保護者へのカウンセリングの効果について。</p> <p style="text-align: right;">【答弁を求める者 教育長】</p>

氏 名	件 名	要 旨
<p>第7位</p> <p>小野 惠章</p>	<p>1. 前阿部市政の継承と渥美市政の施策について</p>	<p>市長、市議会の4月の改選を経て、また部長職から県議会議員へ転身された方もおり、本格的に渥美市政がスタートした。新市長は、7つのマニフェストを掲げ、また前阿部市政の継承も行っていくとした。開かれた市政、市議会を目指すことは、市長、議員とも共通の認識であると思料する。以下について伺う。</p> <p>(1) 協働のまちづくりの今後について。</p> <p>(2) 市長の市民に対する市政報告会または、市民懇談会を開催すべきと考えるがいかがか。</p> <p>(3) 部長マニフェストの取り扱いについて。</p> <p>(4) 児童、生徒の学力向上策について。</p> <p>(5) 自衛隊松島基地との共存共栄について。</p> <p>(6) 市民からの要望、陳情の取扱いについて。</p> <p style="text-align: right;">【答弁を求める者 市長、教育長】</p>

氏名	件名	要旨
<p>第8位</p> <p>櫻井 正文</p>	<p>1. プログラミング教育対応策について</p>	<p>文部科学省の学習指導要領改訂により、小学校が2020年度、中学校が2021年度、高校が2022年度にプログラミング教育が必修化される。これは日本の明日を決定付ける可能性のある改訂である。</p> <p>IoTやビッグデータ、AI（人工知能）、ロボットなどによって第4次産業革命がもたらされ、私たちの生活が激変するといわれている。今回の改訂はそれに対応するIT関連の人材が不足していることが背景にある。また、そのような社会においてはどのような職業に就いてもコンピュータは避けて通れないので、プログラミング的思考を育成しようということでもある。</p> <p>については今後、教育現場において必修化に向けた体制作りが急務であると思われる。そこで、以下の点を伺う。</p> <p>(1) プログラミング教育を実施する環境だが、情報機器はどのように整備するのか。</p> <p>(2) プログラミング教育を支援する専門家や支援員は確保されているか。</p> <p style="text-align: right;">【答弁を求める者 教育長】</p>



氏名	件名	要旨
<p>第8位</p> <p>櫻井 政文</p>	<p>2. 国語が好きになり、その力を伸ばす方策について</p>	<p>平成28年度全国学力・学習状況調査によると宮城県の小学校の国語は全国平均正答率を下回っている。国語は全ての教科のベースになる学問であるし、また、最近、英語の早期教育の必要性が喧伝<sup>けんてん</sup>されているが、英語が身につくためには、国語の素地がしっかりしていなければならない。さらには、社会に出てから企画書を書く、人とのコミュニケーションをする能力も国語の能力である。国語力は子供の人生を決定する原動力と言っても過言ではない。</p> <p>最近話題の将棋棋士藤井聡太四段（15歳）は、活字好き、読書好きで知られ、小学校5年で司馬遼太郎「竜馬がゆく」を読破、その読書の成果の発露だと思うが、将棋の対局の後で「僥倖<sup>きょうこう</sup>としか言いようがない」とコメントし、大人を驚かせた。また、子役タレントの芦田愛菜さん（13歳）は今年の2月に超名門校に合格。彼女の賢さの秘訣は読書だといわれている。小学校低学年の時で年間300冊の本を読んでいたとのことだ。藤井四段、芦田さんとも天才と評され、コミュニケーション能力が高く、人間性も優れていると言われるが、それは読書好きと無関係と思われる。そこで以下の点について問う。</p> <p>（1）学校の授業以外の読書時間を増やすための方策は。</p> <p>（2）論語や古事記などの古典の朗読、素読が国語力を伸ばす上で有効と思うが、学校教育に取り入れる考えはあるか。</p> <p style="text-align: right;">【答弁を求める者 教育長】</p>

氏 名	件 名	要 旨
<p>第9位</p> <p>熱海 重徳</p>	<p>1. 体育施設の整備・管理について</p>	<p>6月の定例会において、鷹来の森運動公園屋内運動場の改修工事が決定された。屋内運動場については部活動やスポーツ関係団体、消防団など利用者も多く、課題解決になったと考える。しかし、グラウンド芝の改修やナイター設備の増設、古い用具の交換などや、管理体制においてもまだまだ改善要望も多く、それらにどのように対応していくか市長の考えを伺う。また、本市でもスポーツ振興、健康推進のためさまざまな事業・行事が開催されているが、期待される効果が現れるよう今後どのように展開していくか以下の点について伺う。</p> <p>(1) 鷹来の森運動公園について グラウンド芝の改修、ナイター設備の増設などの要望についての対応は。</p> <p>(2) 体育施設管理について 休館日（毎週月曜日〔祝日が月曜日の時は火曜日〕）の開放、予約体制（利用の3日前までに申請が必要）の改善は。</p> <p>(3) 総合型地域スポーツクラブの取り組みは。日本体育大学との連携について。</p> <p>(4) ツール・ド・東北の取り組みについて。</p> <p style="text-align: right;">【答弁を求める者 市長、教育長】</p>

氏 名	件 名	要 旨
<p>第10位</p> <p>土井 光正</p>	<p>1. 発達障害への理解を広げ、早期発見、療育につなげよ</p>	<p>最近、特に発達障害に関する記事が新聞紙上で見受けられるが、先日のテレビで34歳の方が体調を崩したので病院で診察を受けたら発達障害と診断されたとの報道がされていた。</p> <p>5月に「発達障害の現状と課題」について大阪大学大学院の片山泰一教授<small>かたやまたいいち</small>の講演を受講したが、通常学級に在籍する児童・生徒のうち、特別な教育的配慮が必要な子供たちは6.5%、医学的に診断を受けている子供の割合は0.6%との統計があると話された。つまり、5.9%のギャップがあり、療育に関わっていない子供が多いとされている。</p> <p>このことを踏まえて次の3点について伺う</p> <p>(1) 発達障害者への取り組みについて。</p> <p>(2) 発達障害について理解を広げる対応について。</p> <p>(3) 早期発見、療育の取り組みについて。</p> <p style="text-align: right;">【答弁を求める者 市長】</p>

氏 名	件 名	要 旨
土井 光正	2 . 小学校の施設整備の完備により、安全安心の学習環境を整えよ	<p>当市は、自衛隊松島基地の騒音対策としてすべての小学校に防音工事を行っており騒音対策済みではあるが、冷房設備が無いため夏の時期に窓を開けなければならない。自衛隊機の訓練時には騒音のため、窓を閉めなければならず蒸し風呂状態の過酷な環境で授業を行っている。</p> <p>また、小学校は災害時の避難場所に指定されている。東日本大震災時の避難状況としてピーク時には、児童数の約5倍の避難者を長期に渡り受け入れている小学校もあり、学校施設の損傷も見受けられ、現在、そのままの状態である。</p> <p>私は、将来を担う学童の学ぶ小学校は、安全で安心できる環境でなくてはならないと思う。そこで次の3点について質問する。</p> <p>( 1 ) 冷房設備の無い小学校(大曲小学校、赤井小学校、赤井南小学校、大塩小学校)に早期に冷房設備を設置せよ。</p> <p>( 2 ) 災害時の避難者退去後の施設点検等はどのような形で行っているのか。</p> <p>( 3 ) 大曲小学校の2階、3階の教室および廊下の床面が老朽化し、避難時における損傷が激しく、かなり汚い状態であるが、いつ対応するのか。</p> <p style="text-align: right;">【答弁を求める者 教育長】</p>

氏 名	件 名	要 旨
土井 光正	3 . 道路冠水等の対策工事や異常降雨対策を急げ	<p>最近は、地球温暖化現象が原因なのか特定はできないが、この夏の30日を超える雨天や、日本の各地で、豪雨災害が頻繁に発生している。気象庁では、今までの大雨注意報、大雨警報に平成25年度からは、特別警報の発令を追加して注意を呼びかけており、宮城県では2年前の「平成27年9月関東・東北豪雨」で大崎市の渋井川左岸3カ所が破堤した豪雨災害が記憶に新しい。この豪雨災害がテレビ等で報道されたとき、ここは宮城なのかと疑った人も多かったと聞く。気象庁によれば台風の影響により、多数の線状降水帯が次々と発生したことにより、1時間に62mmの降雨量という記録的な大雨となったと発表されている。最近の気象状況が激しく移り変わる中で次の2点について伺う。</p> <p>(1) 東日本大震災による地盤沈下等によって大雨で冠水する地域の復旧状況と完了時期および工事完了までの行政としての対策について。</p> <p>(2) 現在の雨水排水計画は、時間雨量47mmと聞いているが「平成27年9月関東・東北豪雨」時、大衡村で時間雨量62mmという設計設定外の降雨があった。当市に当てはめた場合、どの程度の冠水が予想されるか。また、対策方法について伺う。</p> <p style="text-align: right;">【答弁を求める者 市長】</p>

氏名	件名	要旨
<p>第11位</p> <p>阿部としゑ</p>	<p>1. 夏休み後の教育指導を問う</p>	<p>長い夏休み中子供たちは家族や友達と出掛けたりと楽しい日々を過ごしたことと思う。休みの間の生活習慣を元に戻すのは容易ではない。こうした中で、子供たちがあらゆる面で良くなるも悪くなるも夏休み後の生活にかかっていると思う。</p> <p>(1) 市内の児童生徒の夏休み中の生活状況の把握について。</p> <p>(2) 夏休み前の生活に戻すためどのような指導をしようとしているか。</p> <p>(3) 夏休み中、各自、自主勉強にも力を入れたと思うが、学力向上にその成果をどのように生かしていくか。</p> <p>(4) いじめや不登校に関しても特に注意が必要な時期と思われるがその対応は。</p> <p style="text-align: right;">【答弁を求める者 教育長】</p>

氏名	件名	要 旨
阿部としゑ	2. 今後の友好都市等交流事業を問う	<p>友好都市等交流事業に関しては先に常任委員会で調査したが観光を視野に入れてさらに質問する。縁あって北海道更別村、山形県東根市、埼玉県東松山市、東京都大田区との友好都市交流が続いてきた。</p> <p>本市の皆さんはこの村や市区のことを全く知らない人もいると思う。さらに友好を深めるために次の質問をする。</p> <p>(1) 官民一体となった交流が必要と思うが市では今後どのようにしようと考えているか。</p> <p>(2) 市民の皆さんにもクローズアップして友好都市等紹介していくべき。</p> <p>(3) 観光人口が落ち込んでいる中、東松山市や大田区の方々に足を運んでもらうためのアイデアを募集したり積極的に交流事業をして欲しいが。</p> <p style="text-align: right;"><b>【答弁を求める者 市長】</b></p>

氏 名	件 名	要 旨
<p>第12位</p> <p>熊谷 昌崇</p>	<p>1. 消防団員の確保について</p>	<p>前市長にも、市消防団員の確保について質問したことがあるが、本来、消防団員は市職員が加入しても何ら問題はない。全国の自治体の職員が加入している例は多数ある。地震や昨今多く見受けられる、豪雨等の水害に対し、市職員は3号配備等で参集ということも考えられるが、それ以外の事例、例えば、火災現場での交通誘導や火が完全に鎮火したのかを確認する現場の監視やマンホール等の点検等、一般の市民が休日に活動している作業がある。これらの作業は十分、市の職員でも可能な作業と思えるが、市職員の積極的な消防団員の加入を勧めるべきと思うがどうか。</p> <p style="text-align: right;">【答弁を求める者 市長】</p>



氏 名	件 名	要 旨
<p>第12位</p> <p>熊谷 昌崇</p>	<p>2. 被災構造物の撤去推進について</p>	<p>震災後、ガレキが撤去され、あれほど山になって積み上がっていたガレキはほとんど見えないが、残念ながら、まだ手付かずのぐにゃぐにゃに曲がったままのフェンス等が浜須賀地区にはある。航空祭の会場のすぐそばでもあり、あまり見た目にもよくないと思うのだが、早々に撤去すべきではないか。</p> <p style="text-align: right;">【答弁を求める者 市長】</p>

氏名	件名	要旨
<p>第13位</p> <p>手代木 せつ子</p>	<p>1. 廃棄物処理業務についてを問う</p>	<p>私は、長年、鳴瀬一般廃棄物最終処分場にて、市内全域の粗大ごみの受付、計量の業務に携わってきた。その関係上、常々感じてきたことの次の2点について伺う。</p> <p>(1) 平成19年10月1日より、粗大ごみが有料化となり、直接搬入と戸別収集がある。  鳴瀬処分場に搬入された粗大ごみは車ごと台貫に乗り、総重量を計量し、ごみを降ろしてから空車を計量する。その差を見るという方法で必ず2回計量する。台貫の車の荷台にある粗大ごみの中には捨てるにはもったいないなと思えるものも多々あった。  場内では、分別破碎処理され、その後リサイクルできる金属、木質系、廃プラは、それぞれ業者に、分別可燃ごみは石巻クリーンセンターへ、そして、リサイクルできないものは最終的に埋立処理される。この処理方法の中で、収入となるものは金属だけであり、その他の処理に関しては、市民の税金が投入され、受け入れ業者に処分して頂いている。市では循環型社会を推進しているはずだ。日本人特有のもったいない精神が生かされていないと、私は感じているが、市長の所見を伺う。</p> <p>(2) 粗大ごみの戸別収集の仕方について伺う。平成19年10月1日から戸別収集が実施され、間もなく10年になろうとしている。当市も高齢化が進み3年後の2020年には、3人に1人が65才以上という人口形態になると予測されている。現在、免許証を持ち自分で直接搬入されている方も高齢になり、いずれは車の運転をあきらめなければいけない状況になった時、粗大ごみ処理券を事前に貼り、自宅の門近くに朝8時まで出しておくという今の戸別収集の方法では利用しにくとも利用できないという方々が多くなるのではないかと推察する。そこで、高齢化に向けた戸別収集のあり方というものを、検討していくべきではないかと思うが、市長の所見を伺う。</p> <p style="text-align: right;">【答弁を求める者 市長】</p>

氏名	件名	要旨
<p>第14位</p> <p>長谷川博</p>	<p>1. がんばる農家(多様な担い手)支援事業の創設について</p>	<p>本年2月議会の一般質問で「農業の担い手確保について」ただした。その際の答弁で、本市の基幹的農業者はこの10年間で半減し740人に減少、高齢者の割合が増加。</p> <p>一方、新規就農者は10年で37名、法人組織は12団体増えて21法人になどと現状を説明。さらに、本市沿岸部の農家は津波で被災し、営農継続を断念するケースが目立つ実情にも触れた。また、今日、国の農業政策は競争力の強化を図ることを重点に、大規模化・コストダウンで強い農業を目指すとして、大規模経営や法人組織にのみ支援を集中している実態があるなどとの認識を示した。</p> <p>そこで何うが、大規模化や法人化を否定する立場ではないが、農村地域は<sup>なりわい</sup>生業として食料の生産販売という経済活動の側面だけではなく、小規模・兼業農家も含めた集落組織・農家組合があって協力し合って農地や水路などの地域資源の保全管理を行い、人のつながりやコミュニティを維持し地域を支える重要な役割を果たしている。こうした農村の持つ多面的な機能を損なってはならないと考えるものだ。本市の農村地域における中小・兼業農家の位置付けについて市長の見解を何う。</p> <p>平成29年2月8日付、市農業委員会・会長による「市の農業施策等に関する意見について」の意見書が提出された。1件目は「新規就農者や若い担い手への支援について」の要望、2件目は「農業が<sup>なりわい</sup>生業として成り立つための施策について」の項で、農村社会を支えている中小規模農家への支援を切実に訴えている。</p> <p>こうした課題解決施策の参考にと、8月上旬、登米市・産業政策課で市独自の「登米市がんばる農家支援事業」について学ぶ機会を得た。同事業の目的は「兼業農家の農業経営の継続、農業所得の安定及び耕作放棄地の拡大防止を図るため」とし、事業概要は「兼業農家を対象に水稻栽培に使用する農業機械の購入に際して補助金を交付する」もので、補助対象者は稲作経営面積2ヘクタール以上の販売農家、取得価格は30万円以上で耐用年数5年以上の農業機械(中古も可で耐用年数2年以上)。補助率は取得に要する費用の6分の1以内(一戸あたり上限50万円)。事業実施期間は、平成28年度、29年度で事業費は年度ごと1,500万円。平成28年度の実績は、申請件数35件、1戸あたりの平均補助額約32万円、年間支出額1,127万円、平成29年度は既に5件の申請を受けているなどの説明を受けた。</p> <p>この際、本市においても地域農業の振興をともに担う中小農家・兼業農家を支援する市独自の助成制度・支援策を早急に検討すべきと考えるがどうか。</p> <p style="text-align: right;">【答弁を求める者 市長】</p>

氏名	件名	要旨
長谷川博	2. 学校給食の無償化について	<p>学校給食は、子どもの健康や成長に直接かかわる「食」を担う大切な制度である。</p> <p>今日、学校給食の無償化が徐々に拡大してきている。新聞報道によれば、給食費の全額無償を実施しているのは北海道三笠市、栃木県大田原市、滋賀県長浜市、兵庫県相生市の4市と28町、23村、合計55の自治体。加えて、一部補助の実施自治体が362自治体あるとし、全額補助と一部補助の自治体を合わせると、全1,741市区町村のうち417市町村になるとし、宮城県では七ヶ宿町が実施している。こうした学校給食費無償化の広がりについてどのように考えるか伺う。</p> <p>憲法26条で「・・・義務教育はこれを無償とする」と定め、一方、学校給食法は食育の推進をうたっている。給食費の無償化は、義務教育における家計の負担軽減を図り、子育て世代の定住や転入につながる側面がある。一方で、子どもの6人に一人が貧困とされる今日、給食の役割は大きいと考える。育ち盛り子ども達が家庭の事情に関係なく栄養をとれる給食。給食は、将来を担う子どもたちの心身・健康に直結する食生活、身体づくりを支えるという社会的な役割があると考えるものだ。</p> <p>報道のとおり、全国的に市町村独自の無償化が広がっている、本市でも学校給食の無償化を検討すべきと考えるがどうか。無償化の実施に当たっては財源の確保をはじめ、解決すべき問題も少なくないと推測される。よって、一部補助などによる段階的な無料化の取り組みから検討してはどうか、見解を伺う。</p> <p style="text-align: right;">【答弁を求める者 市長、教育長】</p>

氏名	件名	要旨
<p>第15位</p> <p>小野幸男</p>	<p>1. 航空祭と基地との関わりについて</p>	<p>今回7年ぶりの松島基地航空祭が天候にも恵まれ盛大に開催され、市民はじめお越し頂いた皆さんを日本一のブルーインパルスが魅了し、前日の東松島夏まつりと相まって、大盛況で無事終了した。職員と関係各位に感謝申し上げ、基地との共存共栄を今後も友好的に図るため、以下について伺う。</p> <p>(1) 今回の松島基地航空祭に際して、駐車場の確保等に補正予算が組み込まれたが、東松島市一大イベントとしての今後の夏まつりと航空祭への対応として、予算配分をどのように考えているのか、また、松島基地東側の防衛省で買い上げされた農地の有効利活用(通年を通してのブルーインパルスやF-2の飛行訓練のファンサービスの対応と観光の一環としても捉えるべき駐車場等の整備)を強く働きかけるべきと思料されるが市長の考えを伺う。</p> <p>(2) 基地のまちとして、関連する防衛産業の誘致や以前にも少々ささやかれた無人飛行の訓練基地、またはブルーインパルスの追加配備等への取り組みを伺う。</p> <p style="text-align: right;">【答弁を求める者 市長】</p>

氏 名	件 名	要 旨
小 野 幸 男	2．復興事業の 課題について	<p>震災から6年6カ月が過ぎ、大方の事業が進捗する中で早急なる取り組みと解決が待たれる問題について、以下4点について伺う。</p> <p>(1)被災跡地と市道や県道と隣接する除草対策は万全か、また国からの維持管理の予算は当初から配分されないことから、予算確保と今後の対応について。</p> <p>(2)野蒜地区の旧新町の県道の排水対策について、6年が経過するもなぜ遅れているのか、また県道工事が2年遅延するので万全なる対策について期待を込めて伺う。(今回は多くの方より苦情や問い合わせが特に多かったので)</p> <p>(3)農地の復旧も着々と進捗しているが、来年度からの減反政策の廃止や補助金や奨励金の減額の対応と、営農再開に向けて水稻から畑作への転換が迫られ県との協議もさることながら宮戸地区の1～11分区の課題解決と鳥獣対策も伺う。</p> <p>(4)震災後すぐに東名地区に船舶の支援を頂いた九州福岡県の豊前市の市長・議長・産業建設委員会委員長が、今年も遠路はるばる物産交流と人的交流にお越し頂き、航空祭では基地の配慮により会食会にも参加頂き盛況ぶりに感激した。今回交流のなかで友好都市の協定も話題となった。予算の確保など検討すべき課題も考えられることから、まずは市長の取り組みの考えを伺う。</p> <p style="text-align: right;">【答弁を求める者 市長】</p>

氏 名	件 名	要 旨
<p>第16位</p> <p>滝 健 一</p>	<p>1.市営墓地の 建設に着手を</p>	<p>市民であれば誰でも一定の料金で無条件で埋葬できる墓 地が前々から求められている。建設計画に関して伺う。</p> <p>(1)市内の墓地の設置形態をどのように把握しているか、 その内容について。</p> <p>(2)前市長は新火葬場建設後に取り掛かるとしていたが、 具体策を検討する時期と思われる。その骨子について。</p> <p style="text-align: right;">【答弁を求める者 市長】</p>

氏 名	件 名	要 旨
滝 健 一	2. 子供のいじめ問題と教育環境の整備策について	<p>平成23年10月に起きた、大津市中学校のいじめ自殺事件は「いじめ防止対策推進法」の制定や教育委員会改革などの契機となった。しかし、いじめの実態は陰うつな傾向にあり、今年4月末、仙台市立中学校で、いじめを苦に自殺、全国的には夏休みの終わり頃から新学期の初めにかけて、子供の自殺が多発傾向にあることが報道されている。未来を担う子供たちの健全育成のためにも、本市における教育の専門性の維持に万全を期して、いじめ問題を克服して頂きたいと思う。同時に本市の教育環境の整備についても、新校舎建設関連に意を捕らわれることなくおろそかにならないよう努力して頂く期待を込めて、次の件を伺う。</p> <p>(1) 市内小中学校におけるいじめ問題等の実態について。</p> <p>(2) 東松島市誕生から今日までのいじめの質の変貌について。</p> <p>(3) 仙台市の自殺問題をどのように分析するか。</p> <p>(4) 教育環境の整備についてはどのような考えを抱いているか。</p> <p>(5) 鳴瀬未来中学校校舎移転後の活用について。また、後年度の鳴瀬桜華小学校についてもどのように活用するか。</p> <p style="text-align: right;">【答弁を求める者 市長、教育長】</p>



氏名	件名	要旨
<p>第17位</p> <p>佐藤 富夫</p>	<p>1. 本市の内部統制の在り方を問う</p>	<p>このたび、第31次地方制度調査会「人口減少社会に的確に対応する地方行政体制及びガバナンスのあり方に関する答申」を経て、地方自治法の一部が改正された。</p> <p>その法第150条には、自治体の内部統制に関する方針の策定等が規定されている。いわゆる行政のリスク管理であるが、本市においても旧町時代よりさまざまな不祥事、行政リスクが絶え間なく続いている。これらを含め法第2条14項の精神により、地方公共団体の事務の適正性の確保が求められていることから改正されたものである。</p> <p>(1)本市はその意義をどのように受け止め対応しようとしているか。</p> <p>(2)平成27年8月10日、野蒜小学校災害復旧工事(建築工事)請負契約に関する議案審査特別委員会の結論により同議案を全会一致で否決した。特別委員会委員長の報告では、当局の緊張感を欠いた調査不足も一因と断定。一連の対応を検証すべきであるとしている。これも内部統制の緩みと言ってもいいが、検証をどのようにしたか。</p> <p>(3)内部統制には人事管理は大きな要素でもある。労働基準法では一週間に40時間、各日につき8時間を越えて勤務させてはならないとされているが、別規程により規定の時間を越えて就労させることができる。いわゆる超過勤務である。労働基準法と労働協約により超過勤務は上司の命により行うものである。その実情と対応現状について伺う。</p> <p style="text-align: right;">【答弁を求める者 市長】</p>

氏 名	件 名	要 旨
佐藤 富夫	2 . 保育施設の待機児童対策を問う	<p>本市の待機児童数は2017年4月現在で39名である。仙台市、石巻市を除く33市町村では5番目である。</p> <p>2016年では0<small>（ぜろ）</small>であったものが、なぜ一気に増えたか、中には育児に専念するあまり離職した人もいと聞いており、場合によっては死活問題ともなる。県内の状況を見ればそれなりの対応をしている自治体もある。</p> <p>本市では4月からどのような対策をとってきたか。</p> <p style="text-align: right;">【答弁を求める者 市長】</p>

